

実践記録

149

シリーズ

「自分でゆかたを着てみよう」

新潟市立坂井東小学校 地域教育コーディネーター 郷 扶二子

事業を行うきっかけ

伝統文化を伝える会の先生の思いと子どもたちに日本の伝統文化を伝えたいという子どもふれあいスクールのスタッフの思いが一致したことです。

事業のねらい

子どもたちに日本の伝統文化を伝えていきたい。
身近に興味を持てる「着物の文化」を知ってほしい。
日本古来から大切にしているマナーを身に付け、日常生活の中で生かしてほしい。

活動紹介

月に2回土曜日の「坂井東小学校子どもふれあいスクール（通称わくわくランド）」の活動時間の中で

1. ゆかたの着付け教室を行いました。
2. 着ることだけではなく「着物の文化」を知ってもらう学習を行いました。
3. ゆかたを着てのたち振る舞いを体験してもらいました。

ゆかたを着て室内遊びをしました。

ゆかたを着て地域の民謡を踊る練習をしました。

ゆかたを着て七夕祭りを行いました。（笹飾り、白玉団子とお茶のおもてなし）



こんな苦労がありました

*わくわくランドは坂井東小学校の子どもはだれでも参加できる場所なので、参加する子どもたちがいつも同じ子どもではなく、カリキュラムを組んだ指導が難しかったです。

<この点が伝統文化を伝える会の先生の思いとの

ギャップになりました。>

地域への周知・広報の方法

- ・「わくわくランド通信」や学校のHPを使用しました。
- ・参加した子どもたちや保護者・スタッフの口コミの力が大きかったです。

ネットワーク

- ・連携の相手先は・・・「装道礼法親子教室」
- ・指導者やボランティアの確保は・・・
指導者 装道礼法親子教室の講師
ボランティア わくわくランドのスタッフ
- ・地域のネットワークは・・・
中学校にも案内を出し中学生も参加しました。

成果

- ・地域の夏祭りにゆかた姿の子どもが増え、地域の方々に喜ばれました。
- ・地域の夏祭りへの子どもの参加者が増え盛り上がりしました。
- ・子どもたちが茶道という伝統文化に興味をもち公民館で行われる茶道体験教室に参加する子どもが増えました。
- ・日常のあいさつ、ことば遣いがやさしくなりました。
- ・地域の方はこの活動が行われていることを知り、家の中に眠っている「ゆかた」や「ウールの着物」「帯」「ゆかた地」などを学校に持って来てくださり、リサイクルと学校でのコミュニケーションが広がりました。

これからの課題と展望

昨年度は後期に「親子で伝統文化を学ぼう！」という文科省の委託を受けての事業に拡大する計画を立て、着物だけではなく、茶道、立ち振る舞い、伝統行事など広く子どもと親が学べる場を計画しました。しかし、インフルエンザの流行に伴い開催できなくなり、残念ながら中止になりました。今年度は文科省の委託事業はなくなるので、地域のボランティアの方々の力を借りながら、子どもたちが伝統文化に触れることのできる機会を作っていきたいと思っています。